

「サイクルスポーツ×ビーチスポーツ」の可能性

朝日健太郎

日本ビーチ文化振興協会アンバサダー



片山右京

UKYO KATAYAMA

ジャパンサイクルリノチエマン

ジャパンサイクルリノチエマン

朝日 世界中の砂を踏んできた私の評価も、片貝中央海岸の砂は粒子が細かく触っていい気持ちがいい砂だと思っていました。人に与える感触は気持ちいいですが、サイクルスポーツにとっては高負荷な砂。昨年ビーチクロス用の自転車に乗せてもらいましたが、まるで生まれたての小鹿のように(笑)、まっすぐ進みませんでした。数十m進んだだけで、へばってしまいました。

片山 まさにそこがポイントです。オフロードで行われる

朝日 国内ではまだまだ新しい競技。海岸線が広がる日本では発展していくと思えますし、「ビーチスポーツ×サイクルスポーツ」は融合できるのではないのでしょうか。

片山 そうですね。一番いい公道では事故の確率も生まれますが、ひるがえってビーチでは子どもから大人まで、健康的に安全にトレーニングや要素を広めていって、サイク



サイクルスポーツは新しい概念を浸透させ、大きく変わる可能性を秘めている

朝日 20年前の日本には、海辺をスポーツで利用するという概念はまだありませんでした。けれど、私がアンバサダーを務めている日本ビーチ文化振興協会において海辺の活用方法を探ってコトコトと取り組んできた結果、全国各地にビーチスポーツの拠点がいっつも誕生してきました。サイクルスポーツもこれからは新しい概念を浸透させ、大きく変わる可能性、ポテンシャルを秘めていると思います。

片山 サイクルスポートの世界チャンピオンは、パレーポルやサッカークロスのスポーツから転向しているエリート選手が多いんですね。残念ながら、子どもの頃から自転車一

ツボを押さえて読むほどハマる!

はだし文化新聞

ふむふむ

No.19 2024 11/30

2024年11月30日発行 通巻第19号
発行/NPO法人日本ビーチ文化振興協会
編集人/佐伯美香
〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド芽場町3階
電話 03-3552-1171

編集スタッフ/吉田亜衣 (BeachvolleyballStyle)
デザイン/島内泰弘デザイン室

INDEX

- 1面 ・片山右京×朝日健太郎 対談 「サイクルスポーツ×ビーチスポーツ」の可能性
- 2-3面 ・「ジャパンビーチゲームズフェスティバルおたけいば2024」
- 4面 ・「ビーチライフin田辺扇ヶ浜2024」
- 5面 ・「レジャー&アウトドアジャパン2024」
- 6面 ・「ビーチライフ海辺の図書館」オープン
- 7面 ・「葉山・海浜ブルーカーボンシンポジウム」
- 8面 ・編集後記:はだしの足跡

ビーチクロス競技の魅力

朝日 昨年が始まった「ビーチライフin九十九里町」では、ビーチスポーツと自転車レースがコラボし、国内初の自転車ビーチレース「ビーチクロス」を開催しました。多くの人が参加し観戦に訪れたことから、海辺の活用方法として成功に終わりました。

片山 2回目の開催となった今年のイベントを見送っていただきました。周りを見渡すと今年の新イベントは、ビーチスポーツが展開されていて、カルチャーシヨックを受けましたね。驚いたのは、片貝中央海岸の砂質「パライダカ」で走ってきたサハラ砂漠やゴビ砂漠の砂質に負けないような、さらさらで柔らかい。その上を自転車で動けば、当然沈みますので、これはいいトレーニングになりますよ。

「シクロクロス」は、元々オフ

朝日 国内ではまだまだ新しい競技。海岸線が広がる日本では発展していくと思えますし、「ビーチスポーツ×サイクルスポーツ」は融合できるのではないのでしょうか。

片山 そうですね。一番いい公道では事故の確率も生まれますが、ひるがえってビーチでは子どもから大人まで、健康的に安全にトレーニングや要素を広めていって、サイク



ビーチクロスは子どもから大人まで健康的に安全にトレーニングや要素を広めていって、サイク



「ビーチライフ海辺の図書館」がオープン

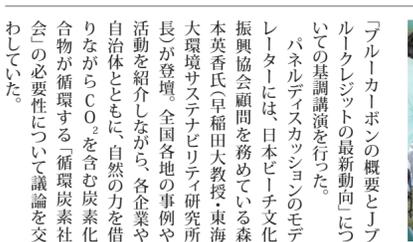
これまでジャパンビーチゲームズフェスティバルなどのイベントでコラボレーションしてきた「ビーチライフ海辺の図書館」が8月10日(土)から18日(日)、神奈川県三浦郡葉山町「色海水浴場のUMIGOYA BEACH HOUSE」にて期間限定でオープンした。グルメ、ワークシヨップ、マリンスポーツ、海ヨガ、音楽など拠点となるUMIGOYA BEACH HOUSEのバリエーションを受け、オープンした海辺の図書館。木の香りが漂う小屋は、サザエさん68巻や絵本、写真集などが完備。昼間は海水浴や散歩の合間に、夜は夜風と静かな波音を聞きながら、読書を楽しむことができる。期間中は、癒しの空間を求めて、海辺の利用者が立ち寄る姿が多く見られた。

葉山に出現した癒しの空間。「ビーチライフ海辺の図書館」がオープン

これまでジャパンビーチゲームズフェスティバルなどのイベントでコラボレーションしてきた「ビーチライフ海辺の図書館」が8月10日(土)から18日(日)、神奈川県三浦郡葉山町「色海水浴場のUMIGOYA BEACH HOUSE」にて期間限定でオープンした。グルメ、ワークシヨップ、マリンスポーツ、海ヨガ、音楽など拠点となるUMIGOYA BEACH HOUSEのバリエーションを受け、オープンした海辺の図書館。木の香りが漂う小屋は、サザエさん68巻や絵本、写真集などが完備。昼間は海水浴や散歩の合間に、夜は夜風と静かな波音を聞きながら、読書を楽しむことができる。期間中は、癒しの空間を求めて、海辺の利用者が立ち寄る姿が多く見られた。



夜、ライトアップした「UMIGOYA BEACH HOUSE」



森本英香氏が登壇。「葉山・海浜ブルーカーボンシンポジウム」開催

「地球に与える影響を抑えるために、ブルーカーボンによる藻場の再生は、海洋生態系を回復しながら健全な炭素循環を担うものとして注目されている。」

このようなブルーカーボンの多機能に着目して、企業、市民、自治体の幅広いネットワークづくりを目指す「葉山・海浜ブルーカーボンシンポジウム」が2024年10月17日(木)、神奈川県葉山町で開催された。葉山町長・山梨崇仁氏の挨拶で始まったシンポジウムには、地球環境戦略研究機関事務局長の川上毅氏、カーボンリサイクルファンド専務理事の橋口昌道氏らが挨拶。基調講演では、ジャパブルーエコノミー技術組合理事長の桑江朝比呂氏が「ブルーカーボンの概要とJアラート」の最新動向について、基調講演を行った。パネルディスカッションのモデレーターには、日本ビーチ文化振興協会顧問を務めている森本英香氏(早稲田大学教授・東海大環境サステナビリティ研究所長)が発壇。全国各地の事例や活動を紹介しながら、各企業や自治体とともに、自然の力を借りながらCO₂を含む炭素化合物が循環する「循環炭素社会」の必要性について議論を交わしていた。

「遊」界中のすべたの心に、アクティビティ・アウトドア産業専門展となる「レジャー&アウトドアジャパン2024」が10月16日(水)、東京ビッグサイトで開催された。その中の催しの一つとして、日本ビーチ文化振興協会代表理事の佐伯美香氏、参与の師岡文男氏、公式アンバサダーの朝日健太郎氏が「ビーチスポーツの祭典」をテーマにしたトークセッションを行った。

師岡氏は「ビーチスポーツを奥深く知らない参加者に向けて、ビーチゲームズとは何か、佐伯氏は「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクトの活動の紹介、朝日氏は「ビーチスポーツ」振興の意義について見解を述べた。最後

「遊」界中のすべたの心に、アクティビティ・アウトドア産業専門展となる「レジャー&アウトドアジャパン2024」が10月16日(水)、東京ビッグサイトで開催された。その中の催しの一つとして、日本ビーチ文化振興協会代表理事の佐伯美香氏、参与の師岡文男氏、公式アンバサダーの朝日健太郎氏が「ビーチスポーツの祭典」をテーマにしたトークセッションを行った。

師岡氏は「ビーチスポーツを奥深く知らない参加者に向けて、ビーチゲームズとは何か、佐伯氏は「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクトの活動の紹介、朝日氏は「ビーチスポーツ」振興の意義について見解を述べた。最後

には三氏によるトークセッションを行い、それぞれの立場で意見を語り、議論を深めていった。

「遊」界中のすべたの心に、アクティビティ・アウトドア産業専門展となる「レジャー&アウトドアジャパン2024」が10月16日(水)、東京ビッグサイトで開催された。その中の催しの一つとして、日本ビーチ文化振興協会代表理事の佐伯美香氏、参与の師岡文男氏、公式アンバサダーの朝日健太郎氏が「ビーチスポーツの祭典」をテーマにしたトークセッションを行った。

師岡氏は「ビーチスポーツを奥深く知らない参加者に向けて、ビーチゲームズとは何か、佐伯氏は「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクトの活動の紹介、朝日氏は「ビーチスポーツ」振興の意義について見解を述べた。最後

「遊」界中のすべたの心に、アクティビティ・アウトドア産業専門展となる「レジャー&アウトドアジャパン2024」が10月16日(水)、東京ビッグサイトで開催された。その中の催しの一つとして、日本ビーチ文化振興協会代表理事の佐伯美香氏、参与の師岡文男氏、公式アンバサダーの朝日健太郎氏が「ビーチスポーツの祭典」をテーマにしたトークセッションを行った。

師岡氏は「ビーチスポーツを奥深く知らない参加者に向けて、ビーチゲームズとは何か、佐伯氏は「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクトの活動の紹介、朝日氏は「ビーチスポーツ」振興の意義について見解を述べた。最後



オープンウォータースイミングとコラボした「ビーチライフin田辺扇ヶ浜2024」

ビーチライフin田辺扇ヶ浜2024(日)、和歌山が誇る美しいビーチ・田辺扇ヶ浜海水浴場で開催された。今年で2回目となるビーチライフは、昨年の人気プログラムとして参加者が多かった「親子はだし運動会」を中心に開催。リビートも含め26組の親子がエントリーし、初夏のビーチにたくさんの笑顔が咲いた。

また、今年は扇ヶ浜で1回目を迎える「南紀田辺・扇ヶ浜オープンウォータースイミング」(主催:田辺商工会議所青年部、田辺OWS実行委員会、田辺水泳協会)とコラボレーション。2004年アテネ五輪バタフライで銅メダルを獲得した中西悠子氏と、元パレーポル、ビーチパレーポル日本代表と



A: 佐伯氏、元水泳日本代表の中西氏。オリンピックによるトークショー B: 元日本記録保持者でもある中西氏は2500人が来場し、ビーチスポーツ熱に包まれていた。 C: コラボしたオープンウォータースイミングのレース D: 家族でビーチを埋め尽くした宝探し

それぞれの立場で意見を深めた「レジャー&アウトドアジャパン2024」

「遊」界中のすべたの心に、アクティビティ・アウトドア産業専門展となる「レジャー&アウトドアジャパン2024」が10月16日(水)、東京ビッグサイトで開催された。その中の催しの一つとして、日本ビーチ文化振興協会代表理事の佐伯美香氏、参与の師岡文男氏、公式アンバサダーの朝日健太郎氏が「ビーチスポーツの祭典」をテーマにしたトークセッションを行った。

師岡氏は「ビーチスポーツを奥深く知らない参加者に向けて、ビーチゲームズとは何か、佐伯氏は「ビーチゲームズ」日本招致プロジェクトの活動の紹介、朝日氏は「ビーチスポーツ」振興の意義について見解を述べた。最後



ワールドビーチゲームズの説明に傾聴する参加者たち



ビーチスポーツ振興の意義について登壇した朝日氏 師岡氏は国際組織「ANOC」に所属していた経験を語った

みなと総研 東洋建設

あなたの街のビーチや港を紹介しませんか? 「はだし文化新聞」では、皆様の街のビーチや港の情報を随時募集しています。ぜひご意見をお寄せください。

〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 3階 NPO法人日本ビーチ文化振興協会 「はだし文化新聞」お便り係 メール: info@beach.jp ファックス: 03-3552-1220

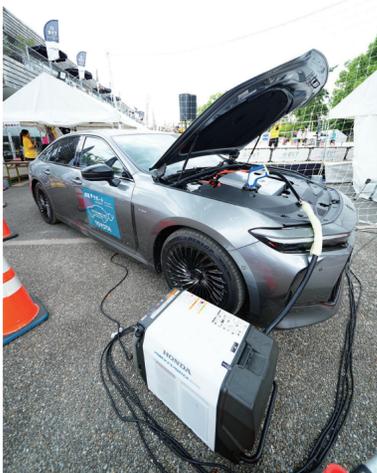
※欄不同

SPORTS to SMILE

～スポーツで社会を笑顔に～

Text/Yoshihisa Kosaki 第2回

公益財団法人日本バレーボール協会



ビーチバレーボール会場での燃料電池自動車。大会運営で使われる電力をまかなっている

ビーチバレーボール会場での燃料電池自動車。大会運営で使われる電力をまかなっている。FCVは燃料の水素と空気中の酸素との酸化還元反応で電気を生み出し、その電力で走行する。非走行時には発電した電気を外部電源としても利用できる。



国内最高峰ツアー・ジャパンツアーグランドスラム名古屋大会の様



秋の風物詩の田辺花火大会



江川のちゃんぽん。そばとうどんを一緒に鉄板で焼き上げた田辺の郷土グルメ。江川のちゃんぽん、香ばしく焼きあがった麺にソースで味付けし、ボリューム満点。そばとうどんの麺のハイミーが口の中に広がります。田辺市江川地区に点在するお好み焼き屋さんで食べるのがオススメです。

ビーチ環境を守るため、「カーボンニュートラルマッチ」を開催。CO2削減へ

ビーチ・マリンスポーツに携わる組織・団体が競技運営以外で取り組んでいる活動をフューチャーするこの連載。

今回ご紹介するのは、日本バレーボール協会が主催する国内最高峰ツアー「ジャパンビーチバレーボールツアー」での取り組みだ。今シーズンから「グ

ランドスラム(全4大会)」において、大会運営のすべての電力を燃料電池自動車(FCV)からの給電でまかなっている。FCVは燃料の水素と空気中の酸素との酸化還元反応で電気を生み出し、その電力で走行する。非走行時には発電した電気を外部電源としても利用できる。

他の競技でもカーボン・ニュートラルに取り組み始めているところはあるが、ビーチバレーボールが最も危機感を抱いているのは確か。近年の気候変動で練習環境だけでなく、本来、ハイシーズンである夏の大会開催も困難になりつつある。これからも他の競技団体に先駆けた温暖化対策の取り組みに期待したい。



ローカルカルチャーイベント「シオゴリキャンプ」

田辺市は、県南部の経済・伊山地と田辺湾に開かれた自然豊かな街です。「熊野古道」は聖なる地として国内外から多くの観光客が訪れています。その麓に広がるのは、田辺市が誇る自慢のビーチ・扇ヶ浜です。扇の形のようになららかなビーチは、透明度の高い水質、おだやかな波が心地よいと賑わいを見せています。ビーチは「スイミングエリ

「ア」ビーチスポーツエリア「パドルスポーツエリア」と使用目的によって分けられているのも特長。夏の海水浴はもちろん、5月から10月日までビーチスポーツのコートが常設されるので存分にビーチスポーツを楽しめます。また、SUPOやシーカヤック等を楽しみたいときには、ボードのレンタルも可能(海水浴場開業期間のみ)。地元グルメを味わえるビーチガーデンも見逃せません。



規ルールは1チーム2人だが、今回は1チーム3人でデモンストレーションを披露。そこに登場したのは、サッカー元日本代表として活躍したラモス瑠偉さんと元フットサル選手でフットサルチームの監督を務める比嘉ヒカルドさんら豪華メンバーだった。バレーボールにおけるトスはヘディング、アタックにおいてはオーバーヘッドキックなど多彩な技が繰り広げられ、子どもたちの熱い視線を釘付けにした。

スポーツ競技ではないが、朝一番の取り組みとして実施されたのが、「ラジオ体操」だ。墨田区ラジオ体操連盟がステージ上でお手本を見せる中、子どもから大人までが一斉に身体全体を動かす、呼吸と気持ちも整えていく。2日間でもよそ200人が参加し、清々しいお台場の空気を全身に浴びていた。ウォーミングアップがてら参加したスタッフたちや演者の顔も爽快感に溢れ、J B G F おだいの新たな名物として定着するかもしれない。

おらが街のビーチ自慢



「ア」ビーチスポーツエリア「パドルスポーツエリア」と使用目的によって分けられているのも特長。夏の海水浴はもちろん、5月から10月日までビーチスポーツのコートが常設されるので存分にビーチスポーツを楽しめます。また、SUPOやシーカヤック等を楽しみたいときには、ボードのレンタルも可能(海水浴場開業期間のみ)。地元グルメを味わえるビーチガーデンも見逃せません。



「普段はハンドボールに興味があるという前提で開催していますが、J B G F おだいは」

JAPAN BEACH GAMES FESTIVAL ODAIBA 2024



A:学生チームからの参加があったため、試合を披露したビーチハンドボールの体験会

B:外国人観光客の体験が目立ったビーチ相撲

C:車椅子やベビーカーでもビーチを歩行できるモビマット



D:障がいがあっても体験できるビーチハンドボール体験

E:関係者と競技者が集まったオープニングセレモニー

F:華麗なるプレーで観客を魅了したラモス瑠偉氏

G:ラジオ体操で心身を元気づける参加者たち

指宿市・指宿港海岸

日本・鹿児島県



朝日健太郎が目利きする。元プロビーチバレーボールプレイヤー・朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選べ「砂ソムリエ」は、足跡の数で評価する。足跡3つが最高だ。さて連載第19回は、鹿児島県指宿市の指宿港海岸の砂。

砂ソムリエ

第19回



和歌山県・田辺市



地域DATA 人口 67,459人 代表ビーチ 扇ヶ浜 観光名所 熊野古道、天神崎 名産 梅、みかん 宿泊施設 扇ヶ浜周辺には多数